

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1572300141		
法人名	医療法人 魚野会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	946 - 0031 新潟県魚沼市原虫野433 - 3 (電話) 025 -792 -1201		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	7月17日

【情報提供票より】(20 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	2人、非常勤 8人、常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1階	建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,730 円	その他の経費(月額)	— 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日あたり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (20 年 6 月現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	5 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 81.2 歳	最低	57 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほんだ病院、藤本歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街から少し離れているものの、周辺には母体法人が運営する病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウスをはじめ各種の居宅サービス事業所があり、この地域の介護・医療ゾーンとして地域住民から信頼されている。特に法人代表者は認知症の専門医であり、ホームの主治医として利用者の健康管理や様々な相談に応じている。さらに、ホームは訪問看護ステーションとも連携して24時間の医療体制を整えている。ホーム内は木材や障子が用いられ、全体に和風の落ち着いた雰囲気が感じられる。オープンキッチンと食堂は低いカウンターでつながっているため料理の匂いや包丁の音、水の音、食器の触れ合う音などが適度に聞こえ、生活感を感じることができる。共用スペースのあちこちに利用者が活けたお花や作品が展示されており、A4サイズに引き伸ばされたスナップ写真帳が置かれて自由に見ることができ、利用者職員との和みの雰囲気が手に取るように感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題の一つである「運営理念の啓発」では、法人広報誌にホーム専用のページを設けたり、ホームの運営理念を管理者と職員全員が協力して作りあげるなど改善している。専用ページを設けたことで入居の問い合わせがあるなど効果も上がっている。また、情報共有の方法として職員会議の議事録を作成し、参加できなかった職員にもわかるようにした。ホームの現状に合わせたマニュアル作成も進みつつあり、改善に向かって努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価実施にあたり、管理者、職員全員は1項目づつ読み合わせを行いながら自己評価表を取りまとめた。取りまとめの過程で職員の気づきにもなった。評価の意義を十分に理解し、結果を真摯に受け止めよりよいホームになるよう取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月ごとに開催し、住民代表、家族、行政代表が参加して、利用者も交えながら行われている。ホームの活動報告、行政からの情報、住民・家族からの要望等が話し合われ、参加者にホームの状況がより伝わるよう写真を見てもらう等の工夫がなされている。また、意見交換の様子などは議事録に記され、運営に活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱も設けられているが、家族は直接職員に話をするこのほうが多い。そのため職員は日ごろから面会に来られる家族が意見や要望を言いやすいように、職員から先に声をかけるなど話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族からの要望に対しては、改善へ向けて取り組んでいる。また、家族と離れて暮らしていることから、家族が不安を抱かないよう日常の些細な変化でも報告し、家族の気持ちや意向をくみ取りながら対応するように心がけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣には地域の福祉センターがあり、そこで行われる行事や高齢者向けの催物には積極的に参加している。このような関わりを通して、地域にホームの存在を理解してもらうよう努めている。また、顔見知りになったことで、近隣の人たちから野菜などの差し入れを頂くこともある。中学生の課外学習ボランティアも受け入れている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念のもとにホーム独自の運営理念を掲げている。「その人らしく」暮らせ、安心していただける「第2の家庭」となるよう支援することを大切にしたい理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は職員とともに作りあげ、毎年見直しをしたいと管理者は考えている。また、気持ちを新たに日々のケアに取り組むことができるようにと、毎月1日に全員で理念を唱和するなど、理念を意識するよう努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえように取り組んでいる	自分たちの理念や介護の考え方を家族からも理解して欲しいとお便りで知らせている。また、法人全体の広報誌にホームの理念や取り組みを記載し、市内全域に配布している。さらにホームページを設けたりと、ホームの理念を地域の人や家族に伝える取り組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣には地域の福祉センターがあり、そこで行われる行事や催物には積極的に参加している。地域に出かけることで交流を深めており、地域の方から野菜などの差し入れを頂くなど、ホームの存在を理解してもらえている。		
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価実施にあたり、管理者、職員全員は1項目ずつ読み合わせを行い自己評価表を取りまとめた。取りまとめの過程でいくつか気づきを得ることができた。また、評価の意義を十分に理解し、結果を真摯に受け止めよりよいホームになるようにしたいと考えている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月ごとに開催し、住民代表、家族、行政代表が参加して、利用者も交えながら行われている。参加者にホームの状況がよりわかるよう写真を添えるなどの工夫がなされている。また、意見交換の様子などは議事録に記され、運営に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人全体で行政との良好な関係が築かれており、運営推進会議への参加はもとより、行政からも情報提供があるなど、サービスの質の向上に向けて協力して取り組んでいる。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待についての研修会に参加し、参加後は復命報告を行なって、虐待の理解と防止に向けて取り組んでいる。また、虐待などによって地域の信頼を失うことがないよう母体法人の職員教育も徹底している。職員は、日常の会話の中にも精神的虐待にあたるようなものがないように注意し合っている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付の際にホームでの生活の様子など近況を手紙に書いて知らせている。健康面については変化が見られた都度電話で知らせ、連絡を密にとって家族に安心してもらえるように努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱も設けられているが、家族は直接職員に話をするもののほうが多い。職員は日ごろから面会に来られる家族が意見や要望を言いやすいように、職員から先に声をかけるなど、話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族からの要望に対しては、改善へ向けて取り組んでいる。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々行われている話し合いや行事を執り行う際など、職員と目線を同じくして意見や提案を聞く姿勢を示し、出された意見等は運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間に管理者の交替はあったが、職員の異動や離職はなかった。馴染みの職員が多くいることから利用者は安定している。管理者は、離職を防ぐために職員が働きやすい職場環境づくりに配慮して、夜勤専門職員の配置や勤務希望を取り入れた勤務表作りなど工夫している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	管理者、職員は昨年の評価を受けて母体法人のマニュアルをベースにしながら現状に即したホーム独自のマニュアルを作成している段階である。職員はサービスを一定水準に保つためにもマニュアルの必要性を認識しており、また必要に応じてマニュアルの見直しも大切さも理解している。		ホームで提出されたヒヤリハットや事故報告も活かして、必要なマニュアルの作成や見直しをなされることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内の研修のほか、必要に応じて外部研修にも参加している。外部研修は公務扱いとし、参加した後は復命報告をするなどの内部研修を行っている。また、資格取得には勤務調整や受験料を助成するなど支援の仕組みがある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣市町村のグループホーム同士で2ヶ月ごとに研修や情報交換、交流を通してサービスの質の向上に努めている。そこでは管理者、介護支援専門員、介護職員など各職種別に集う機会もあって情報交換が盛んに行われている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩室として独立した場所はないが、現場から離れて思い思いの場所で休憩することができる。管理者は、職員とは目線を同じくして話を聞くように心がけている。また、職員は互いに信頼しあっている様子が伺える。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望される方には居室やホーム内を見てもらって。また、その際には2～3時間ほど他の利用者と一緒に茶饮みや話をしたりして、ホームの雰囲気に馴染んでもらうように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とは何でも話をし合えるようになるにはどうすれば良いか、「第2の家庭」になるにはどうすれば良いか、いつも意識して接している。また調理や野菜作りなど日常生活場面を通して、人生の先輩の利用者から教えていただくという気持ちをもちながら接している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	管理者は家族と共に利用者を支えていくことを大切にしている。利用者の様子をきめ細かく伝えたり、月々おこなわれる行事も家族が参加しやすいように意識して企画している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して見られる表情や言葉から思いを汲み取るように心がけている。本人のできることやどうして欲しいと思っているかなど利用者の気持ちに添って援助するように常に心がけているが、事前の情報や確認した意向の記録が少ない。		入居前の自宅訪問を行うことで、より個別性ある情報収集ができたり、現在使用しているアセスメント様式にセンター方式の一部を用いてアセスメントすることで、利用者の思いや意向をよりよく把握でき、日々の関わりに反映できるのではないか。今後の取り組みに期待したい。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要と思われる情報は本人、家族を中心に今まで利用していた居宅サービス関係者などから聴き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との話し合い、あるいは職員が利用者との関わりの中で得た情報を活用しながら6ヶ月ごとに介護計画を作成している。職員は介護計画に基づいた記録をとり、次の計画作成に活かしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングは3ヶ月ごとに行い、6ヶ月ごとに介護計画を作成している。また、利用者の状況に変更が生じた場合はその都度家族に報告し、話し合い、変更した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに床屋が来てくれるほか、行きなれた床屋を利用できるよう支援している。医療についても、ホーム利用前からのかかりつけ医の受診を継続している利用者もあり、受診介助は原則家族が行うが、場合によっては職員が支援することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する母体法人の系列病院、訪問看護などの医療サービスと密な連携を図っており、利用者、家族の安心につながっている。基本的には主治医となっている協力医療機関を受診するが、他の医療機関への受診も支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針が作成され、利用者の状態、家族の意向に基づきホームでの看取りも支援する体制である。利用者の状態や家族の意向は変化することが予測されるため1ヶ月毎に意向確認を行っている。それらをふまえ、管理者と職員はホームで看取るということについて基本的な考え方を話し合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員は、日常的な会話等でも利用者のプライバシーを損ねるような言葉かけがないよう注意している。居室の出入り口も不用意に開放されていない。また、高齢者福祉に携わるものとしての守秘義務および個人情報保護について理解しており、個人に関わる記録物などは施錠できる書庫に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな過ごし方はあるが、その日の健康状態や一人ひとりの意向に応じて過ごせるよう支援している。涼しい朝の内に畑仕事をする利用者、自分で決めた散歩コースを散歩する人など希望に沿った過ごし方をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と共に食事の準備や調理、盛り付け、配膳、片付けなどを行い、本人のできる事を見極めながら支援している。栄養が偏らないように管理栄養士が献立を作成しているが、アドバイスをもらいながら時には収穫された野菜を使って料理し、食卓に添えている。介助を必要とする方もいることから食事時間は十分にとり、ゆっくりと食事を楽しめるようにしている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各居室にトイレが用意されており、他者の目を気にすることなく排泄できる。職員は利用者の排泄パターンを熟知しており、個々に応じて対応している。排泄チェック表を活用して自立に向けた支援を行い、トイレで排泄できるようになった事例もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本としつつ、利用者一人ひとりの希望回数や時間に極力応じている。風呂場は2箇所あり、プライバシーも十分に守られ、ゆっくりと入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花を活ける、洗濯物を干す・取り込む、炊事などの家事仕事をはじめ、戸外で草花や野菜を作るなど、利用者の経験や意向を尊重しながら無理なくできることを見極め、役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然豊かな環境に加え、近くにある福祉センターでは高齢者向けの行事等もあり、頻繁に出かけて楽しんでいる。また、車に乗って利用者のナビゲーターで「出身地めぐりドライブ」を行うなどユニークな取り組みも行って好評を得ている。時にはスーパーで衣類や日用品を買いに行くなど、日常的なこととして外出を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者と職員は身体拘束をすることの弊害を十分理解している。職員に対する研修は母体法人と協力しあって実施している。職員は何気ない言葉かけについても、行動を禁止したり抑制することがないよう注意している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は不必要に鍵をかけることを行っていない。玄関は夜間施錠するものの昼間は誰が訪れても出入りは自由である。人の出入りがあると鈴がなる仕組みになっているが暮らしの邪魔になるような不快な音ではない。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	隔月ごとに法人内で事故についての報告・研修会が行われている。事故報告、ヒヤリハットの様式は整備されており、法人全体の取り決めにより、報告内容によって1～7レベルに分類され対策が講じやすくなっている。特に転倒から骨折に至らないように早めの対策を心がけている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の「医療安全対策委員会」が主催して急変時適切な対応がとれるよう職員に研修を行っている。緊急時の連絡網も分かりやすい場所に貼付され、職員には周知されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	玄関以外に避難路が2ヶ所確保され、各居室の掃き出し窓からは直接ベランダにも非難することができる。避難訓練や防災訓練は月1回定期的実施している。ホーム周辺は住宅地でなく、住民の協力を得ることは難しいが、非常時には隣接する母体病院や介護保健施設と連携を図る体制がある。震度4以上の地震の際は、職員が駆けつける取り決めになっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づいて料理されるが、時には焔で取れた旬の野菜を用いた副菜が食卓にのりこもある。利用者の状態や嗜好に応じ、食事の形態を工夫したり、側で見守ったり、介助するなど気配りをしている。職員は利用者一人ひとりの食べる量や水分量も把握している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はじめリビングなどには季節の生花が活けられて潤いを与えている。台所はリビングと隣接しているため、水の音、食器の触れ合う音、料理のおいしそうな匂いなどが感じられる。また、リビングでは金魚を飼育したり、A4サイズに引き伸ばされた写真がファイルされ、誰もが自由に見て楽しむことができる。新聞も2紙購読し、自由に読んでもらっている。外に面している窓は大きく、四季折々の自然を眺めることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら利用者一人ひとりが自室に思い出の品々を飾ったり、使い慣れた家具や身の回り品を持ち込んで落ち着いて過ごせるような環境作りをしている。居室やトイレの開口部は、車椅子の出入りが不自由なくできるように広く作られている。		